



## 学力・学習状況調査をなぜ行うの？

校長 吉田伸吾

この号がお子様を通してであったり、地域の回覧であったりして皆様のお手元に届く頃には、本校の運動会は終わっていることと思います。しかし編集時の現在は、まさに本番に向けラストスパートの状況です。どの子供たちも本当に一生懸命頑張っています。その頑張りが運動会当日、保護者や地域の皆様の目に、耳に、そして心に届いたとしたら、私たち教職員にとってこれ以上の幸せはありません。

さて今月の話題ですが、この運動会に代表される学校行事とはまるで正反対のような、そして学校の第一の命題である「子供の学力」についてです。あえて「正反対」と書きましたが、実は「学校行事を頑張ること」と「学力を向上させること」は、ともに本校の学校教育目標「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる西小っ子の育成」にあることで、同じ目標を具現化するもの同士なのです。

ということで、今年4月に行われた「全国学力・学習状況調査」と「埼玉県学力・学習状況調査」の結果が届きましたので、そこから分かる本校の学力・学習状況についてお知らせします。まず「似たような調査をなぜ2つもやるのか」といった疑問をお持ちの方もいるかも知れませんが、そもそも両者の特長や目指すものがやや異なります。このことについて、県教育委員会の担当の方からご指導いただいた主な違いを簡単にまとめますと、以下のようになります。

全国学力・学習状況調査	埼玉県学力・学習状況調査
○対象は小6、中3＝毎年、対象者が変わる ○問題が公開され、事後に問題の分析、活用が可能＝児童の定着度を見届け、授業改善を図る	○対象は小4～中3＝個々の学力の伸びが分かる ○問題は非公開、個々、集団の結果を踏まえた分析が可能＝優れた実践に学び、授業改善を図る

これらを踏まえ、本校でも各調査結果の分析を行っています。ここでお知らせする結果は、概要を数字(平均正答率)ではなく言葉で説明いたします。それは、数字の一人歩きが「学校間の比較」や「真の学力を見えなくさせる」の恐れがあるからです。この点をご了解ください。では各調査の結果概要です。

### I 全国学力・学習状況調査 (小学校では小6のみ対象・実施教科は国語、算数、理科+質問紙)

- ・どの教科も全国平均と概ね変わらない結果であった。(全国平均との差 -3.7pt～+2.3pt)
- ・国語、算数ともに、B問題(主に応用に関する問題)よりA問題(主に知識に関する問題)の結果が良い。
- ・理科については、記述式問題での結果が低い(-4.5pt)ことが西小全体の平均正答率に影響している。
- ・質問紙調査では、80%以上の児童が多くの質問で肯定的な回答をしており、良好な結果である。特に良い結果であったのは「将来役に立つ人になりたい」「朝食喫食率」「家での予習、復習」であった。課題が残ったのは「計画立てて自主学习」「地域行事に参加」「地域の方に勉強やスポーツを教えてもらう」であった。

### II 埼玉県学力・学習状況調査 (小学校では小4～6が対象・実施教科は国語、算数+質問紙)

- ・どの学年、教科も県平均と概ね変わらない結果である。(県平均との差 -1.3pt～+4.4pt)
- ・4年；国語は全体的に平均的な結果である。しかし、困難度が高い記述式の問題の正答率が高い(+4.2pt)。算数は全体的に良好な結果である。特に、困難度が高い記述式の問題の正答率が高い(+15.3pt)。
- ・5年；学年全体の学力の伸びは、4年次より学力レベルが国語は1段階、算数は3段階伸びている。国語は全体的に良好な結果である。しかし、困難度の高い記述式の問題の正答率は低い(-3.3pt)。算数は全体的に良好な結果である。しかし、困難度の高い問題の正答率は低い(-2.1～-4.0pt)。
- ・6年；学年全体の学力の伸びは、5年次より学力レベルが国語は2段階、算数は2段階伸びている。国語は全体的に平均的な結果である。しかし、困難度の高い問題の正答率は低い(-1.7～-7.5pt)。算数は全体的に平均的な結果である。しかし、困難度の高い問題の正答率は低い(-0.5～-4.7pt)。
- ・質問紙調査(規律ある態度)では、全学年とも、全体的には良好な結果であった。全12項目中、ほぼ全てが80%を達成できた。中でも「あいさつをする」「話を聞き発表する」がやや課題として残る。

結果の数字に一喜一憂するのではなく、この結果をきちんと分析し、今後の教育指導の充実と学習状況の改善に役立てることが2つの調査に共通する目標です。よって調査はまだ終わっていないのです。